

# 文化財庭園保存技術者協議会 会報

2013.12 第23号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：水本隆信）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内

TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター

TEL：075-791-9018 FAX：075-791-9342

東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

## 平成25年度総会ならびに研修会の報告

平成25年(2013)7月26日(金)、京都府京都市中京区の京都社会福祉会館において、文化庁、京都府、京都市より来賓を迎え、本協議会の総会を開催しました。その概要をご報告いたします。

まず、京都市文化市民局の奥美里文化芸術担当局長より、歓迎のご挨拶をいただいて後、文化庁記念物課の本中眞主任文化財調査官よりご挨拶をいただいて後、総会資料に従い議事が進められました。

今回の総会では、役員の変更がありました。廣瀬慶寛氏が代表を退任され、副代表であった水本隆信氏が新代表に、上原修氏(留任)、徳村盛市氏(留任)、加藤末男氏が副代表に就任されました。

続いて、平成24年度の事業報告・決算報告・監査報告、続いて平成25年度の事業計画ならびに予算が報告されました。

総会に引き続き、教養研修が行なわれ、最初に、本中文化財主任調査官より、「名勝の保護」と題して、近年の文化財保護行政における文化財の指定・登録の傾向や現状などとともに、東日本大震災による被災地の復興と文化財保護の取組などについてご解説いただき、人々が親しみ、作り上げてきた地域の風土や景観を改めて確認・保全していくことも文化財保護行政に課せられた使命となっているとお話をいただきました。

続いて、京都市元離宮二条城事務所の後藤玉樹担当課長より、「元離宮二条城における修理事業について」と題して、もともと皇室の離宮であった二条城や京都市に下賜されて後の二条城の様子や、現在まで連続と続けられている建造物や障壁画の修理の状況とともに、今後の展望などについてご解説いただき、続いて、尼崎博正評議会員に「二条城二之丸庭園について」と題して、二条城の庭園の変遷などとともに、現状の課題や今後の整備のあり方などについて、ご講演いただきました。

こうして教養研修を終えて後、二条城にて実地技能研修が行われました。尼崎博正評議会員に庭園全般についてのご解説いただきながら、二之丸庭園を含む城内を実地に視察しました。

翌7月27日(土)と翌々日の28日(日)、京都府京都市東山区の名勝円山公園にて実地技能研修が行われ、尼崎博正・龍居竹之介・田中哲雄・丸山宏各評議会員の監修のもと、植栽の管理を行いました。

円山の地は、江戸時代から遊覧の地として知られていましたが、明治になり、近代公園として生まれ変わりました。公園の整備には7代目小川治兵衛も関わり、また、円山の枝垂桜も有名で、多くの観光客が訪れる名所となっています。

しかし、近年は樹木の伸張などが著しく、小川治兵衛が作った流れにも多くの土砂が堆積し、かつて保たれていた公園の景観がややもすると失われがちになっていました。そこで、今回は、流れに堆積した落葉や土砂などを除去し、往時の流れの景観を取り戻すことを目的にした研修を行いました。

水本隆信代表と3名の副代表の実技指導のもと、4名の評議会員に加え、円山公園を所管されている京都市建設局南部みどり管理事務所にお勤めで、本協議会の準会員補でもある神藤和憲氏にも監修に加わっていただき、2日間の研修を行いました。



実地技能研修の様子（円山公園）

研修に先立ち、丸山評議員からは円山公園の沿革について、尼崎評議員からは、円山公園も含めた公共庭園と植治の関係、植治とともに、作庭や造園にたずさわった建築家とのつながりなどについて、神藤和憲氏からは、近年の円山公園の管理の状況、特に近年に始められた、流れや池周辺の修復剪定などの事業について説明いただき、公園内を一巡して後、作業に取りかかりました。

研修場所とした滝と流れの部分は、長年にわたって泥などが堆積し、下流部では流れの底の石敷きなども見えなくなってしまっていました。そこで、堆積の少ない上流部分については、石敷きの間にたまって土の除去を行い、下流部分については、流れの中央に泥の堆積状況を確認するため、流れの底の状況に注意しながら30cmほどの幅でトレンチ状に堆積土を除去し、堆積土の状況調査や簡易測量を行い、今後の流れの保存修理のための基礎資料を得ることとしました。



実技技能研修の様子（円山公園）

作業の結果、上流部分は、滝や流れをほぼもとの様相に戻すことができましたが、その中で、流れの底が何回か改修されている痕跡も確認されました。2日間という限られた日程でもあり、改修部分の調査などは行えませんでした。研修終了間際に、実際に水を流して、流れの状況を改めて確認することができました。最後に各評議員より講評いただき、研修を終了しました。特に龍居評議員からは、研修で各自がしたことの意味をよく認識するとともに、今回の研修のように、その成果をきちんと記録することや、名勝庭園がとりまく歴史的環境も考えながら、今後あるべき姿を思い浮かべることが重要であることを認識して、今後も研修に励んで欲しいと総括をいただきました。

なお、研修中、会場の利用や資料提供に便宜を図っていただいた京都市建設局水と緑環境部南部みどり管理事務所ならびに(公財)京都市都市緑化協会など、関係者の方々には本当にお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 庭園学講座20開催される

本協議会では、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座20「日本庭園のモダンとポストモダン」を特別教養研修と位置付け、会員の方に開講のご案内をさせていただきましたところ、今回も多くの方に参加いただきました。その概要をご報告いたします。

講座は、平成25年(2013)8月30日(金)から9月1日(日)の3日間開催されました。

1日目は、本協議会評議員でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正所長より、「日本庭園の時代性—モダンとポストモダンの系譜」と題して、各時代の日本庭園でおこった変革や、変革に携わった庭園家についての講義から始まりました。続いて、本協議会の事務局長補佐で、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター日本庭園部門長の仲隆裕教授より、「寛永文化の中の庭園」と題して、江戸時代の寛永年間(1624~1644)を中心とした寛永文化の中での宮廷、武家の庭園文化の変遷について、また、京都造形芸術大学曾和治好教授より、「庭園のサウンドスケープ調査に関する基礎的考察」と題して、流れや滝など、庭園内で発生する音が庭園に果たす役割や音環境を意識した作庭の可能性等についてのご講義をいただき、午前中の日程を終了しました。

午後は、参加者は2班に分かれ、1つの班は修学院離宮を、もう1つの班は仙洞御所を見学し、その後合流して、7代目小川治兵衛(植治)とその息子の白楊(保太郎)の作品である京都市登録名勝都ホテル葵殿庭園及び佳水園庭園を見学しました。

2日目は、午前中は京都造形芸術大学にて、京都工芸繊維大学の矢ヶ崎善太郎准教授より、「近代の風流 西川一草亭をめぐって」と題して、近代の庭園や茶道などを様々に論じるサロンを作った西川一草亭のもとに集った人物の一人である建築家の藤井厚二をとりあげ、その作品から茶道や華道などの文化的な活動と建築との新しい関わり方についてのご講義に続いて、京都造形芸術大学の佐々木葉二教授より、「ランドスケープデザインと近代庭園のゆくえ」と題して、造園分野における欧米の都市や公園のデザイン思想の変遷と、近代日本における庭園と公共性との関わり方について、また、

尼崎所長より、「西川一草亭の庭園観」と題して、矢ヶ崎教授のご講義にも登場した西川一草亭に焦点を当て、彼の建築や茶道、近代庭園に対する考え方や活動についてご講義いただき、午後は現地研修として、南禅寺界隈の近代庭園である、和輪庵と京都市指定名勝の光雲寺庭園を見学しました。

3日目午前中は、「日本庭園 現代の展開と評価」と題してのシンポジウムが開催されました。尼崎所長より趣旨説明をいただいて後、(独法)人間文化研究機構 国際日本文化研究センターの白幡洋三郎教授より、「庭園史の“常識” 大名庭園の評価を通して」と題して、今までの日本庭園の庭園史観と江戸時代の大名庭園の利用面から見た価値観の相違、また、さらに近代庭園における庭園観について、話題提起とともにご講演いただいて後、対談に入りました。

対談では、尼崎所長と白幡教授に、作庭家で重森三玲の孫でもある重森千青氏、本協議会の正会員で、森蘊・村岡正両氏と共に多くの庭園の実測や修理にかかわった山中造園の山中功代表を加え、尼崎所が進行役となり、重森三玲と森蘊・村岡正の庭園観や立場の違いやその成果について様々に議論が行われました。

午後は、現地研修として、重森三玲、森蘊、村岡正の3人が関わった庭園の残る東福寺において、東福寺方丈庭園と龍吟庵庭園、京都市指定名勝の即宗院庭園を見学し、最後に即宗院で尼崎所長より修了証書の授与と閉講のご挨拶をいただき、3日間の講座を終了しました。

## 文化庁主催シンポジウム「文化財保存技術2013～文化財を支える『伝統の名匠』～」開催

平成25年10月26日(土)・27日(日)、福島県会津若松市の鶴ヶ城体育館において、文化庁主催シンポジウム「文化財保存技術2013～文化財を支える『伝統の名匠』～」が開催されました。

当日は選定保存技術保存団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや、保存伝承活動についての報告があり、本協議会も設立趣旨や研修の様子などのパネル展示を行いました。

今回は、従前よりのパネル展示、醍醐寺三宝院庭園の修復整備などの様子を編集したビデオの放映に加え、庭園管理に必要な道具の製作と使い方の講習をセットにし、鶴ヶ城体育館では会場に来られた方に手箒の製作指導を行い、また、名勝会津松平氏庭園(御薬園)では、作った手箒の使い方の講習会を行いました。



手箒の製作風景



会津松平氏庭園(御薬園)での講習会の風景(上下とも)



指導・講習は、本協議会の加藤末男副代表、山中功正会員、平井幸輝研修会員、山本善丈研修会員の4人とともに、研修会員でもある(財)会津若松市観光公社の小林賢庭園管理長にもご協力いただいて実施しましたが、何分、どの位希望者があるかもわからず、一同、不安もありながらの開催でした。しかし、いざ始まると、次から次に、我も我もと希望者が殺到し、昼食時間以外、休み無しで製作を指導しつつ、あれこれ質問攻めにされた会員からは、現場の仕事よりしんどいとの感想を漏らされるほどの盛況でした。小林賢庭園管理長にお聞きした所では、福島近辺では庭仕事も含めて、手箒を使わないということで、もの珍しさもあったようですが、メインイベントである隣の講演そっこのので参加者の皆さんが製作に熱中する様子は、ちょっと主催者に申し訳ないような気分もしたものです。

ただ、この2日間とも天気が悪く、使い方の講習会の参加者は少なめでした。それでも、山中正会員に講師役になっていただき、参加者の皆さんに手箒で御薬園を掃除していただきました。急なお願いにもかかわらず会場をご提供いただきました(財)会津若松市観光公社の皆様にご場を借りて厚く御礼申し上げます。

## 平成25年度 実地技能研修姫路で開催される

平成25年11月9日(土)、兵庫県姫路市を会場として、好古園ならびにあずきミュージアムにて実地技能研修を開催しました。その概要をご報告致します。

当日は、中村一・丸山宏・尼崎博正各評議員に加えて、(株)大北美松園の大北望代表取締役を講師にお迎えしての研修となりました。まず、好古園前に集合し、水本隆信代表より開会のご挨拶をいただき、続いて中村評議員より、好古園の立地や江戸時代の様相、整備の経緯などについてご解説いただき、好古園内に入りました。

好古園内では大北望氏や丸山評議員より、構想や設計、施工時の留意点とともに、完成から20年経った現在の課題などをご解説いただき、かつて姫路城の西御屋敷跡だったため、往時の遺構を残しながらの施工に色々とお苦労があった点などもお話しいただきました。

午後は和菓子で有名な(株)御座侯の展示施設であるあずきミュージアムに移動し、館内とともに、大北望氏の作った庭園を見学し、作庭時の建築工事とのせめぎあいや設計変更などによる構想の実現の過程などについてご解説いただき、研修を終了しました。



実地技能研修の様子(上下とも好古園)



## 2014年の実地技能研修の開催について

新年2014年は、2月8日(土)・9日(日)の2日間、東京都内の文化財庭園などを会場にして、実地技能研修を開催させていただきます。詳細は別紙の案内をご参照下さい。申し込みの締切は1月9日(木)までとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

また、3月後半には実地技能研修の実施を計画しております。期日や会場などの詳細は新年に改めてご案内させていただきます。年度末でお忙しいかとは思いますが、ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

## 新規加入会員の紹介

平成25年10月末日で技能会員は184名、支援会員・賛助会員は21団体、4名となりました。ここに新規に入会された方をご紹介します。

会員区分	氏名	所属
準会員補	中川 慶治	(株)高木造園
準会員補	奥山 聖治	橘造園
準会員補	小島 政則	(有)飯塚緑化建設
研修会員	森 和生	(有)森造園土木
研修会員	高木 晶久	岩間造園(株)

会員区分	氏名	所属
研修会員	北森 さやか	植彌加藤造園(株)
研修会員	樋口 貴茂	樋口造園(株)
研修会員	藤井 利文	グリーンサービス産業
研修会員	石川 昌亨	石川鳳舞園
研修会員	小島 隆志	(有)飯塚緑化建設

(編) 気が付くとあっという間に年末ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

遅くなりましたが、春の岩手研修の報告書が完成しましたので、お送りさせていただきます。また、本年度の実地研修にご参加の方にはその時の集合写真を同封させていただきます。

本年度はあと2回の研修を予定しています。2月は実地研修、3月は実地研修の予定です。年度末で何かとお忙しいかとは思いますが、ふるってご参加下さい。

皆様、よいお年をお迎え下さい。新年には研修会場でお目にかかりましょう。